

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】 基本的な知識・技能を確実にし、根拠をもとに思考力・判断力・表現力等を身に付けた生徒の育成
 全国調査で福岡県の標準得点以上、県学力調査で県の標準化得点で100以上

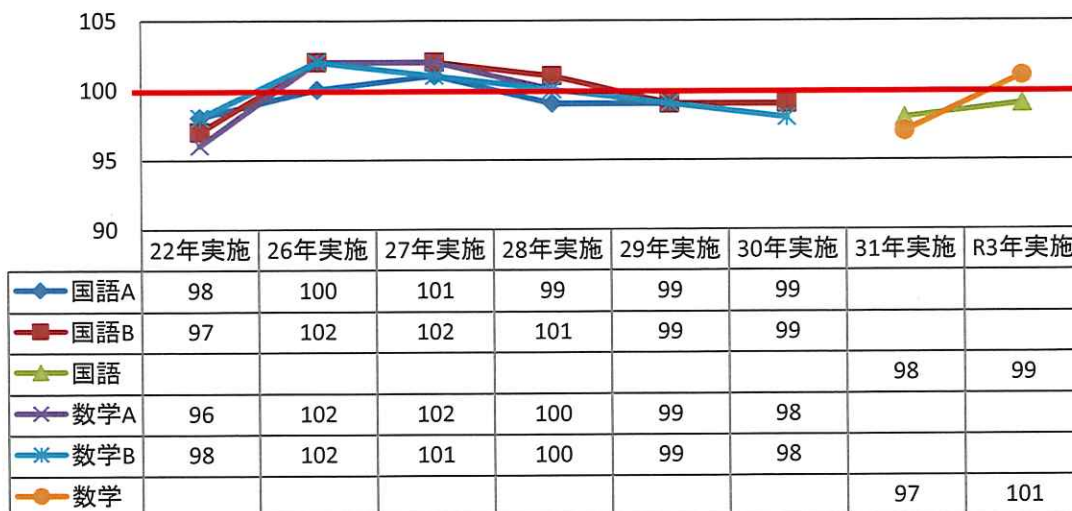
3.指標に向けての取組

- ・学習専門委員会による、学習コンクールの実施
- ・学級活動(1)における話し合い活動を通して目標設定と振り返りの実施
- ・補充学習の計画的、段階的な実施

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	99	101
嘉麻市	97	97
全国	100	100

推移



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

○「書く」活動を中心とした反復、習熟学習により、基礎的な知識と技能を育成することができた。

○生徒質問紙において昨年度まで課題とされていた「自分には良いところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことにも挑戦しますか」の3つの質問項目について、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の回答を含めると、全て県平均、全国平均と同等か超える数値となり、非認知能力の育成に効果を示す。

○目標設定、チャレンジ、振り返りを重視した「福岡鍛ほめメソッド」の指導方法を数学科の「未来への一歩」でも実践することで、目標設定とその達成のためのプロセスについて振り返る経験学習の手法を生徒とともに教師も学び、結果の意味づけ・価値づけから次の目標設定につなげることができた。

○国語科では、根拠を明確に書くことや考えを広げ・深めることに、数学科では普段の生活への活用に課題が見られた。

6.各学校における今後の取組

○加配教員の有効活用で、各学年数学や英語での習熟度別学習を実施し、それぞれの生徒の課題に応じた学習内容とする。

○「福岡鍛ほめメソッド」を活用した学習コンクールや英語検定のチャレンジなど、学級や個々人の生徒の目標に応じて、達成目標を決め、その実現に向けて努力する取組を継続して行う。

○学校提案型学力向上事業を活用した放課後補充学習の取組において、特に学習につまづきのある生徒への家庭学習の習慣化と定着、忘却防止を図る。

○全国学力・学習状況調査をはじめ、県学力調査や、未来への一歩、英検IBA等の各調査の取組と結果についてPDCAサイクルを意識した検証を行い、学年内での推移や他学年との傾向の違いを早めに察知して指導改善に役立てる。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。

- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。